

## 1-2 都市形成の経緯

### 第1段階〈江戸時代まで〉

#### — 城下町の形成、絹織物のまちとして繁栄 —

中世、戦国時代までの都留郡内は小山田氏が中津森に居を構えて勢力を伸ばしていました。その後、都留郡は徳川氏の領地となり、豊臣政権による支配（加藤氏、浅野氏など）を経て、慶長6年（1601）以降約100年間、幕府諸侯（鳥居氏、秋元氏）の封地となりました。その後は幕府領地および直轄地を経て明治維新を迎えます。

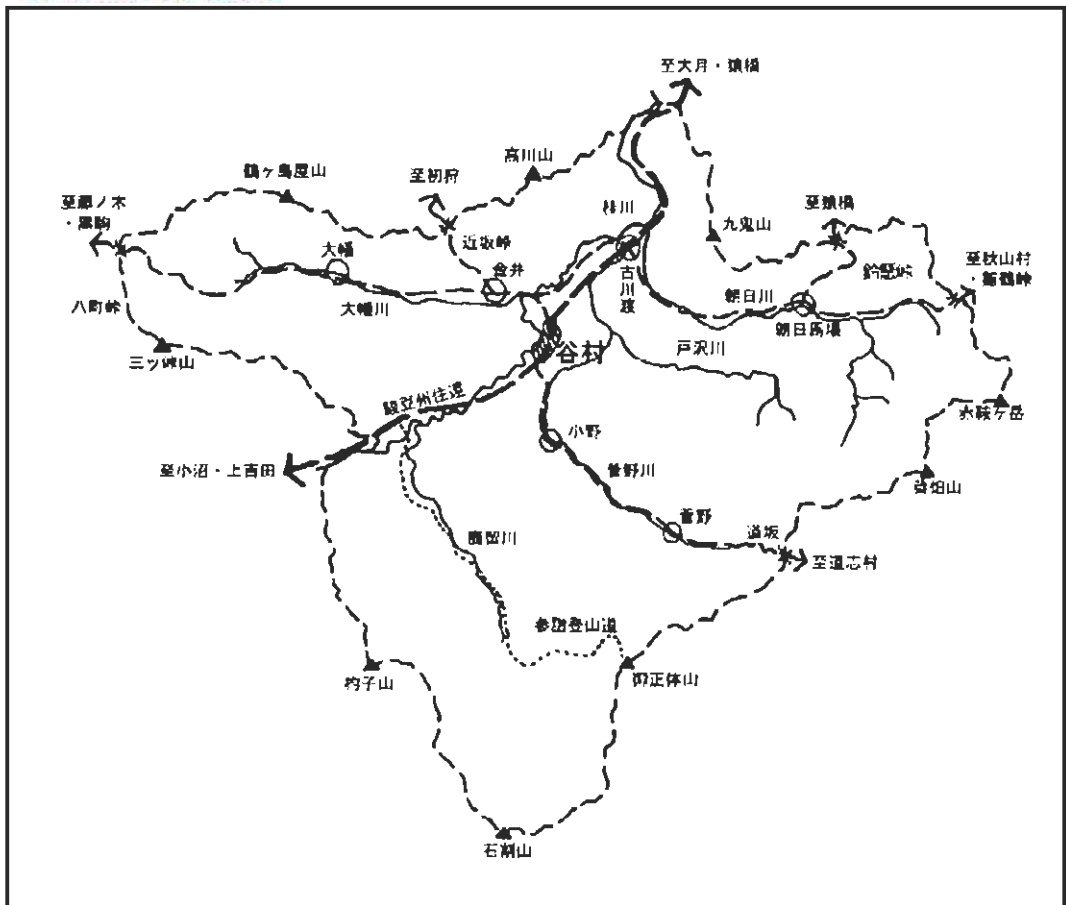
谷村は、小山田氏が居館を構えて以来一貫して都留郡支配の中心地となってきましたが、加藤氏・浅野氏時代～鳥居氏時代に家臣居住地が桂川右岸に変更されたことをきっかけに、城下町として発達を遂げることとなりました。

秋元氏の時代には、「谷村堰」「五ヶ堰」事業も行われ、都留市域を郡内における最大の穀倉地帯にするとともに、郡内を絹織物の一大生産地に発展させました。

秋元氏転封後は絹織物産業を核とする商業活動を中心に、独自の文化・歴史を歩むこととなります。

また、近世は産業や流通の発達に伴って街道が整備され、甲州街道や駿豆州往還の他、脇街道が整備されていきました。

#### ●近世の都市形成状況



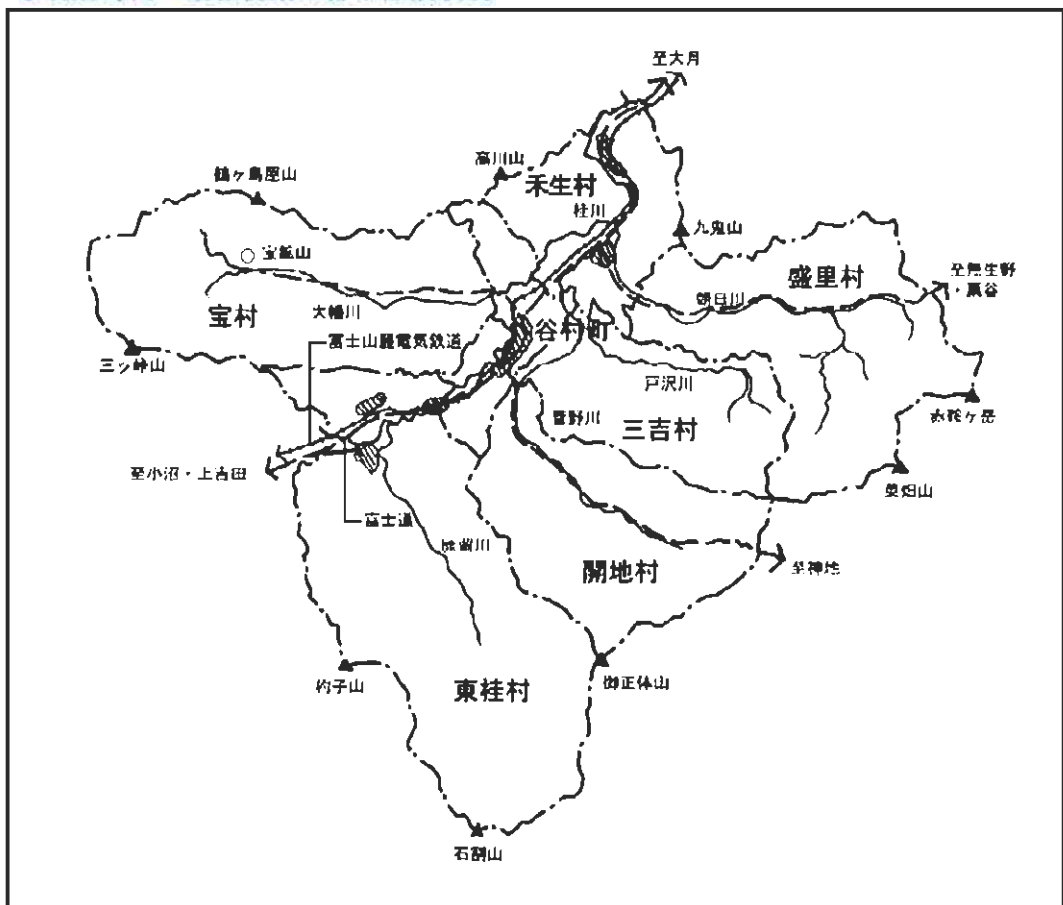
### 第2段階<明治時代～昭和前期>

#### — 交通、産業、生活の近代化、中心都市としての求心力の低下 —

明治維新後、市町村制発足のために町村の合併が行われ、7か村（谷村、三吉村、開地村、宝村、盛里村、禾生村、東桂村）が成立しました。その後明治29年に谷村に町制が施行され、谷村町となりました。

明治35年には中央線が八王子から大月まで延伸し、翌明治36年には富士馬車鉄道が開通するとともに、道路の整備も進みました。これに伴い、まちの形態も変化していきました。昭和4年に富士山麓電気鉄道が開通し、高速電車の営業が開始され、都留市域の人口も増加しましたが、瑞穂・福地両村（現富士吉田市）が次第に大きく発展し、谷村の郡内地方に占める位置は相対的に弱まっていくこととなります。

#### ●明治時代～昭和初期の都市形成状況



第3段階<昭和後期～現在>

— 交通機関の高速化と市街地の進展 —

本市は、太平洋戦争では大きな戦災を受けませんでしたでしたが、昭和24年、谷村町で大火があり、それを機に道路の拡幅等を行いました。昭和29年には、1町4か村が合併し、現在の都留市が誕生しました。

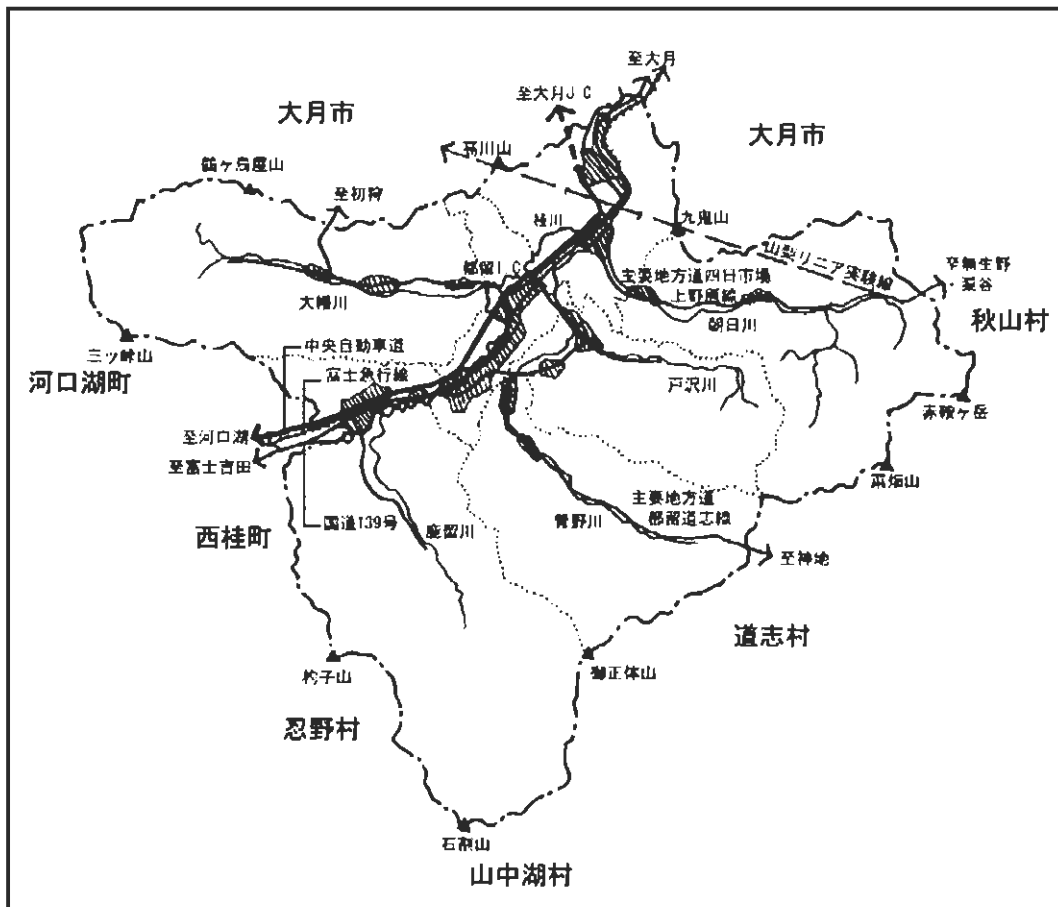
昭和30年には市立都留短期大学が開学し、昭和35年に4年制の都留文科大学になりました。

まちが急速に変化したのは、戦後の復興から高度成長期にかけてです。この時期には、モータリゼーションの影響を受け、国道139号の改良工事をはじめ、市内各地の道路整備が進み、これに伴い市街地が拡大していきました。

昭和40年代頃からそれまで農地であったところが宅地化していく傾向がみられ、道路や基盤整備とあいまって桂川沿いの集落は徐々に連担し、現在の都市構造が形成されてきています。都留市は元来平坦地が少ないという地形的な制約を負っており、その希少な平坦地において近年都市化が進展してきています。

交通の面ではJR東日本の富士急行線乗り入れ、中央自動車道の開通などにより、周辺地域との時間距離も短縮しました。

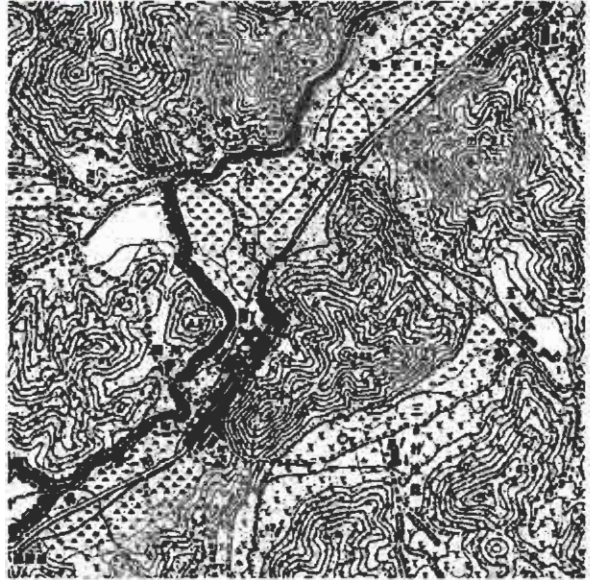
●昭和後期～現在の都市形成状況



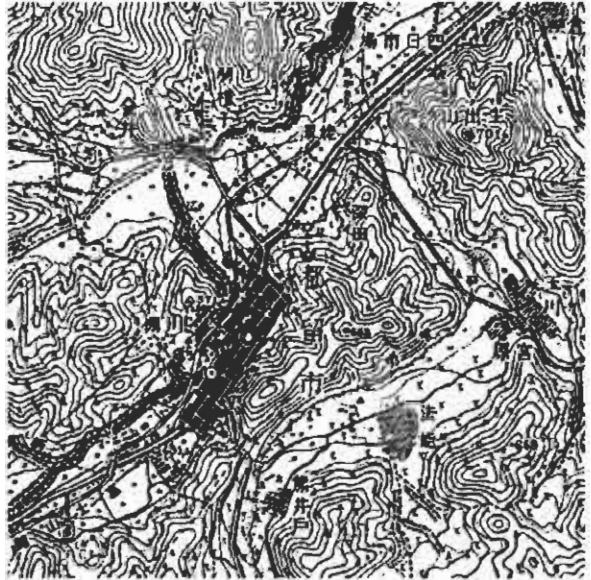


### ■地図にみる都市形成の変遷(谷村中心部付近)

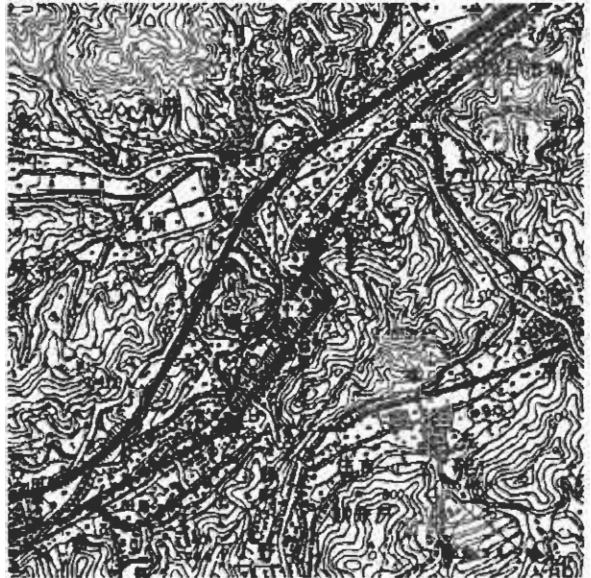
●明治29年：地形の改変がほとんどみられず、桂川をはじめ大幡川、菅野川などが自然な形で流れ、山辺の微高地や交通の結節点に集落が分布している。沼津往還（現国道139号）が幹線道路としてほぼ現在の国道の位置に通っている。谷村はすでにかんがりの市街地を形成しており、郡内の中心地としての都市集積がみてとれる。



●昭和34年：馬車鉄道から富士電気軌道を経て富士山麓電気鉄道となった軌道が、現在の富士急行線の位置に通っている。鉄道の影響などもあり、谷村の中心市街地が拡大している。現行の市町村制が施行になって都留市が発足しており、谷村には地方事務所が設置されている。現在の都留文科大のある場所は草競馬場となっている。



●平成7年：中央自動車道が市を貫通している。国道139号も線形・拡幅改良がなされている。桂川沿いの平坦地は、おおむね市街地が連担し、一体の市街地を形成しつつある。都留文科大や市立病院など市の主要施設も確認でき、ほぼ現在の都市が形成されている。



(出典：「旧版地形図 1/50,000」国土地理院)

## 2 市民のまちづくりに対する意向

### 2-1 アンケート調査の実施概要

本市では、市独自の個性や地域特性をしっかりと認識するとともに、まちの将来像やまちづくりの方向性等について、広く市民の意見や考えを聴取し、これらを反映させた計画づくりを目的として以下の要領でアンケート調査を実施しました。

- 対象地域：都留市全域
- 調査時期：平成14年8月
- 調査対象：20歳以上の市民のなかから無作為に2,000人を選びました。
- 配布・回収方法：郵送による配布・回収を行いました。
- 回収数：666通が回収され、回収率は33.3%でした。

### 2-2 全体集計結果の概要

#### (1) 都留市の現在のイメージ

- ・本市の現在のイメージは富士山を源流とする河川の水の豊かさ、緑豊かな山々、里山の風景などを挙げる人が多く、自然環境に関するイメージが突出しています。
- ・次いで、文化学園都市としてのイメージが高くなっています。
- ・一方、産業や宅地開発などの活力や、ゴルフ・釣り・ハイキングなどの観光のまちというイメージは低くなっています。

#### (2) 都留市の将来像

- ・まちの将来像については、保健・福祉の充実や生活基盤の整った暮らしやすいまち、自然環境の保全と調和を望む意見が多くなっています。
- ・次いで、新たな産業が育つ活力のあるまちを望む意見が多くなっています。
- ・一方、観光や祭り、イベントのあるまち、歴史文化などの資源を活かすことへの意向は低くなっています。

#### (3) 今後のまちづくりで重視すべき点

- ・今後のまちづくりにおいては、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくりや道路や公園、下水道、など生活基盤を重視する傾向が強くなっています。
- ・次いで自然環境の保全と調和を図るとともに、企業誘致などによる活力を高めていくことが望まれています。

#### (4) まちづくりを進めるために優先すべきこと

##### ●まちの発展

- ・まちの発展のためには、新しい産業拠点や道路網、駅周辺の整備を図ることを優先すべきとしています。

##### ●土地利用

- ・調和のとれた土地の使い方については、土地の有効活用や緑の保全、まちのルールづくりなどによる土地利用の整序を優先すべきとしています。

##### ●基盤整備

- ・基盤整備については、都留市駅周辺の改善と魅力を高め、まちかどの広場・公園や散策路の整備及び広域・地域間の公共交通を含めた交通網の整備を優先すべきとしています。

##### ●自然環境や景観

- ・ふるさとの自然や環境については、自然環境を守り育てると共に、ごみの減量化を促進し、河川環境の保全や緑化を優先すべきとしています。

##### ●防災

- ・防災面では、避難路となる道路網の整備、避難場所及び備蓄倉庫などの整備を進め、森林を保全することを優先すべきとしています。

##### ●福祉・医療

- ・福祉の面では、福祉施設・病院など福祉、医療体制を強化し、誰もが安心して過ごせるまちづくりを優先すべきとしています。

#### (5) まちづくりへの参加・体制

##### ●まちづくりへの参加や協力意向

- ・住民のまちづくりへの参加や協力意向は高く、こうした傾向は住民と行政の協働によるまちづくりに向けた貴重な足がかりになると考えられます。
- ・そうした市民参加への環境づくりが今後のまちづくりにおける課題となります。

##### ●行政に望むまちづくりの取り組み体制

- ・行政に望む取り組み体制としては、住民意見の反映を明示し、情報提供・情報公開を重視することが求められています。
- ・日常的に身近に住民の関心を触発し、まちづくりに関われるような体制づくりが必要であると考えられています。

##### ●協働のまちづくり

- ・協働のまちづくりを進めていくために、協働の仕組みや場を創ることを多くの人が望んでいます。
- ・次に、住民・事業者・行政の役割分担の明確化が重要であると考えられています。



## 2-3 地域別集計結果の概要

### (1) 都留市の現在のイメージ

- ・東桂地域・開地地域では、都留市の現在のイメージとして「美しい自然環境」を最も意識しています。
- ・谷村地域・禾生地域・盛里地域では「里山の風景」を意識する割合が他地域と比べて高くなっています。
- ・谷村地域・開地地域・宝地域では「文化学園都市」を意識する割合が他地域と比べて高くなっています。

### (2) 都留市の将来像

- ・三吉地域では将来の都留市に望むものとして「保健や福祉の充実」が特に高くなっています。
- ・開地地域では「生活基盤の整備」が最も高くなっています。
- ・東桂地域・盛里地域では「豊かな自然環境を守る」が他地域に比べて高くなっています。

### (3) 今後のまちづくりで重視すべき点

- ・東桂地域・開地地域・宝地域では、今後のまちづくりで重視すべき点として「自然環境を守る」が他地域に比べて高くなっています。
- ・三吉地域・宝地域では「災害に強く安全」の回答割合が高くなっています。

### (4) まちづくりを進めるために優先すべきこと

#### ● まちの発展

- ・まちの発展のために優先すべきこととしては、いずれの地域においても「新しい産業拠点の整備」を望む割合が高くなっています。
- ・盛里地域においては「商業や農業の後継者」と回答した割合が他地域と比べて高くなっています。

#### ● 土地利用

- ・調和のとれた土地の使い方をするために優先すべきこととしては、東桂地域・三吉地域・宝地域で「緑の保全と活用」が最も高くなっています。
- ・谷村地域・開地地域・禾生地域・盛里地域では「空地などの有効利用」の割合が最も高くなっています。
- ・東桂地域・開地地域・禾生地域では「ルールづくり」を望む回答が他地区と比べて高くなっています。

### ●基盤整備

- ・基盤整備については、東桂地域では「まちかど広場や公園」、宝地域では「都留市駅周辺のまちなみ」、盛里地域では「歩道や散策路」「バイパスなど地域間連絡」がそれぞれ最も多いなど、地域において傾向にばらつきが見られます。

### ●自然環境や景観

- ・ふるさとの自然や環境については、東桂地域・谷村地域・盛里地域では「ごみの減量化」、開地地域・宝地域・禾生地域では「豊かな山々」を重視する回答が最も多いなど、地域において傾向にばらつきが見られます。

### ●防災

- ・防災面では、いずれの地域においても「避難路となる通路網」を最も重視しています。
- ・三吉地域・開地地域・宝地域・盛里地域など山間の地域では「森林の保全」を重視すると回答した割合が他地域に比べ高くなっています。
- ・開地地域、盛里地域では「治水対策」の割合が他地域に比べ高くなっています。

### ●福祉・医療

- ・福祉の面では、いずれの地域においても「福祉施設の整備」「市立病院など医療体制」を重視する割合が高くなっています。
- ・谷村地域・開地地域では「子育て支援施設」を重視する回答の割合が他地域と比べて高くなっています。
- ・開地地域では「レクリエーション施設」と回答した割合が他地域と比べて高くなっています。



### 3 都留市のまちづくりの課題

本市の現状や問題点、地域特性、都市形成の変化、市民のまちづくりに対する意向などから、本市の今後のまちづくりに向けた基本的な課題を整理すると次の通りです。

#### ① 限られた平坦部を有効に活用するため、いかに効果的な土地利用を誘導できるかが課題

中心市街地の高度利用を図るとともに、禾生、東桂、宝、三吉（法能）などの中心市街地隣接部、幹線道路やバイパス沿道など、開発の圧力が高い地域で、いかに秩序ある土地利用を誘導するかが課題です。

特に、田野倉付近では、沿道型店舗や宅地開発が進んでおり、緊急な対応が求められています。

また、歴史的に住工が混在している地区の土地利用誘導方策や、市街地やその周辺の農地・緑地をどのように都市と整合させ、まちづくりに活用していくかが課題です。

#### ② 中心市街地へ集中する現在の道路体系をいかに分散させ、中心市街地の活力を維持しながら、通過交通を排除していくかが課題

中心市街地の道路整備と、迂回するバイパスルートや、地域間の連絡ルートを適切に組み合わせた道路体系を検討・整備していくことが課題です。

それにあわせて、大月、富士吉田、道志など周辺地域との連続性をどのように創るかが課題です。

特に都留ICを活用した交通体系の検討が重要です。

また、既存の市街地と骨格的な道路との接続や、歩行者の視点での道路整備を検討することも必要です。

道路整備を迅速に進めるためにも、都市計画道路について、総合的な視点から一部の見直しも含めて具体的な整備方策を検討することが課題です。

#### ③ 都留市の自然環境を保全しながら、いかに環境に配慮した環境負荷の少ない都市を創っていくかが課題

豊かな森林に支えられた水資源は、多くの市民が大切にしたい財産と考えています。山林、河川、身近な緑などを一体的にとらえて、総合的な環境を考えていくことが重要です。また、体験などを通して人々の意識を啓発していくことも必要です。

また、施設整備にあたっては、いかに環境負荷の少ない整備をしていくかが課題です。

#### ④ 都留文科大学をまちづくりにいかに活用していくかが課題

本市は全国的にもめずらしい市立の4年制大学を有しています。大学には教員や学生といった人的資源、施設や設備といった直接的な資源があります。また、大学があることによる地域イメージを創るとともに、地域を活性化させる交流の拠点として、人が集まることによる副次的な効果も期待できます。

大学の卒業生は全国で活躍し、本市とのつながりを有する人材が増えることで、これらの人的ネットワークも活用することが可能です。

大学の持つこれらの要素を、大学と地域の連携を図るなかで、いかに活用していくかが課題です。

#### ⑤ 都留の歴史・文化をまちづくりや地域の産業にいかに反映できるかが課題

高齢化に伴う余暇時間の増大や価値観の多様化などの時代の要請から、まちづくりにおいて、多様な市民活動の場づくりをしていくことが求められています。

城下町であった都留市は、江戸時代初期から江戸との交流を通じて取り入れられた数々の文化や、明治・大正・昭和にかけて育まれてきた教育・文化の伝統などを大切に保全・継承するとともに、新しい文化を育て、まちづくりや地域の産業に結びつけていかなければなりません。

また、各地域の自然・文化・産業遺産などの資源を顕在化するとともに、ネットワークを形成し、地域ごとに特色あるまちづくりを創造していくことが課題です。

#### ⑥ 安心、安全で住みやすいまちを創ることが課題

誰もがまちの中を自由に移動でき、施設を利用できるユニバーサルデザインの考え方による整備を行うとともに、地域の中でお互いに助け合い、高齢者や障害者が住みやすい、あるいは小さな子どもを安心して育てる環境を創っていくことが課題です。

災害に対しては、防災拠点や避難地の整備、避難ルートの確保や建物の防災対策など、多様な施策で災害に強いまちづくりを行うことが課題です。

#### ⑦ 若者が地域で働ける活力あるまちづくりが課題

本市における農林業や工業、既存の中心市街地の商業などは厳しい状況におかれており、近年では若年層の市外への流出が大きな課題となっています。

既存の業種が連携して新しい集客型の産業を形成するとともに、商店街の活性化を図ることで働く場を確保し、魅力あふれる活力あるまちづくりを進めていくことが課題です。



都留市文化ホール（うぐいすホール）